

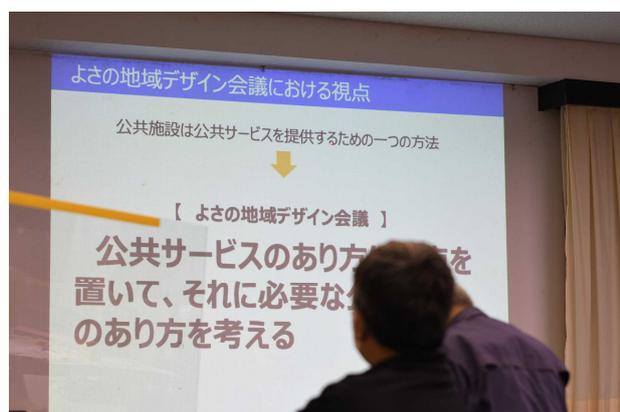
第1回よさの地域デザイン会議（加悦地域）を開催しました

10月12日（火）元気館農事研修室で、「よさの地域デザイン会議（加悦地域）」を開催しました。ファシリテーターは、京都産業大学現代社会学部 教授 滋野 浩毅 氏です。

本会議は、年齢、性別、居住地区、肩書などが異なる多様な住民に参加いただき、持続可能なまちづくりにおける公共サービスのあり方、それに必要な公共施設のあり方について、対話により多彩なアイデアや提案を収集する場です。

初めての会議のため、はじめにグループ内で4マス自己紹介により緊張をほぐしたあと、町企画財政課から社会の変化や公共施設の現状について説明し、そのあと公共サービスの「利用圏域」を考えるグループワークを行いました。近くにあった方がよい公共サービス、逆に近くなくてもよい公共サービスを「小学校区域」「旧町区域」「全町域」「近隣市町」「遠隔」に分けて模造紙に整理していきます。整理する際は、なぜそのように思ったのか話し合いながら進められました。

他のグループがどのように整理されているかを覗きに行ったあとは、新たな気付きからさらに話し合いが進められ、時間が足りないほどの盛り上がりとなりました。



参加者のみなさまからの主な意見・感想

- ◇旧町単位ではなく、町単位で考えるべき。
- ◇使っていない施設、知らない施設が多い。
- ◇知らないことが多い、もったいない。
- ◇施設で活かしきれていないものが多い。
- ◇あるものを有効活用する。
- ◇不要な施設はなくす（エゴ等があり難しいが、..）。
- ◇（築年数、必要性に関係なく）施設等の売却を検討する。
- ◇論旨を「利用者」とするのか、「施設」とするのかで、表の整理は変わってくる。
例）図書館は、施設としては町に一つ大きな図書館があり、子どもなどの利用利便の配慮として、移動図書館や配達などで本を借りること（サービス享受）ができればよい。
- ◇人が集まる道・ルート・ポイントがあれば。
- ◇農地利用、仕事誘致などによる定住に関すること。
- ◇公民館などワークショップ（営利目的）利用ができれば、..。
- ◇フリーランスが借りられる場所がない。
- ◇図書館にカフェの併設。
- ◇廃校の賃貸化。



【感想】

- ◆会議の方向性がわからない。具体的な話がない。
- ◆地域デザイナー→何をするのかわからなかった。
- ◆回答者の年齢や状況等で変わる可能性がある。
- ◆年齢により公共施設の使い方が異なる。
- ◆世代によって見ている世界が異なる。
- ◆論旨を「利用者」とするのか、「施設」とするのかで、表の整理は変わってくる。
- ◆大変な会議に参加したが、最後までやっていこう。
- ◆この場に来ないと人口減少、行政課題を我が事として考えにくい。
- ◆人口がそんなに減るのか。財政の状態を再認識。
- ◆少子高齢化は全国的では？
- ◆この会議がきっかけに何か一つ取り組みが始まると素敵。
- ◆施設の店じまいに向けてマイナスなことを出すことや要望を出すことで、気分的に沈みやすいが、その後にはできること、前向きな一歩を提案できるようにこの会議を持ちたいとグループ内で気持ちの整理ができた。
- ◆前向きな意見を町に届けたい。
- ◆若者の意見が聞けて勉強になる。

【傍聴者ご意見】

- 企画意図どおり女性、若い人が委員になり、まずよかった。
- 参加者の世代間の構成もうまくいったのではないのでしょうか。
- 役場職員も参加しての会議委員が編成された。町民と行政によるまちづくりの第1歩がスタートしたと思った。
- あとは、コーディネートをどうするかの力量が問われるのではないか。
- コロナ禍の現代社会、「科学的知見」をどう取り入れた「まちづくり計画」が求められている。
- 世代間の「連帯」が生まれるのかもしれない。



問い合わせ先

よさの地域デザイン会議事務局（与謝野町企画財政課）

電話 0772-43-9015（直通） FAX 0772-46-2851

メール kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp